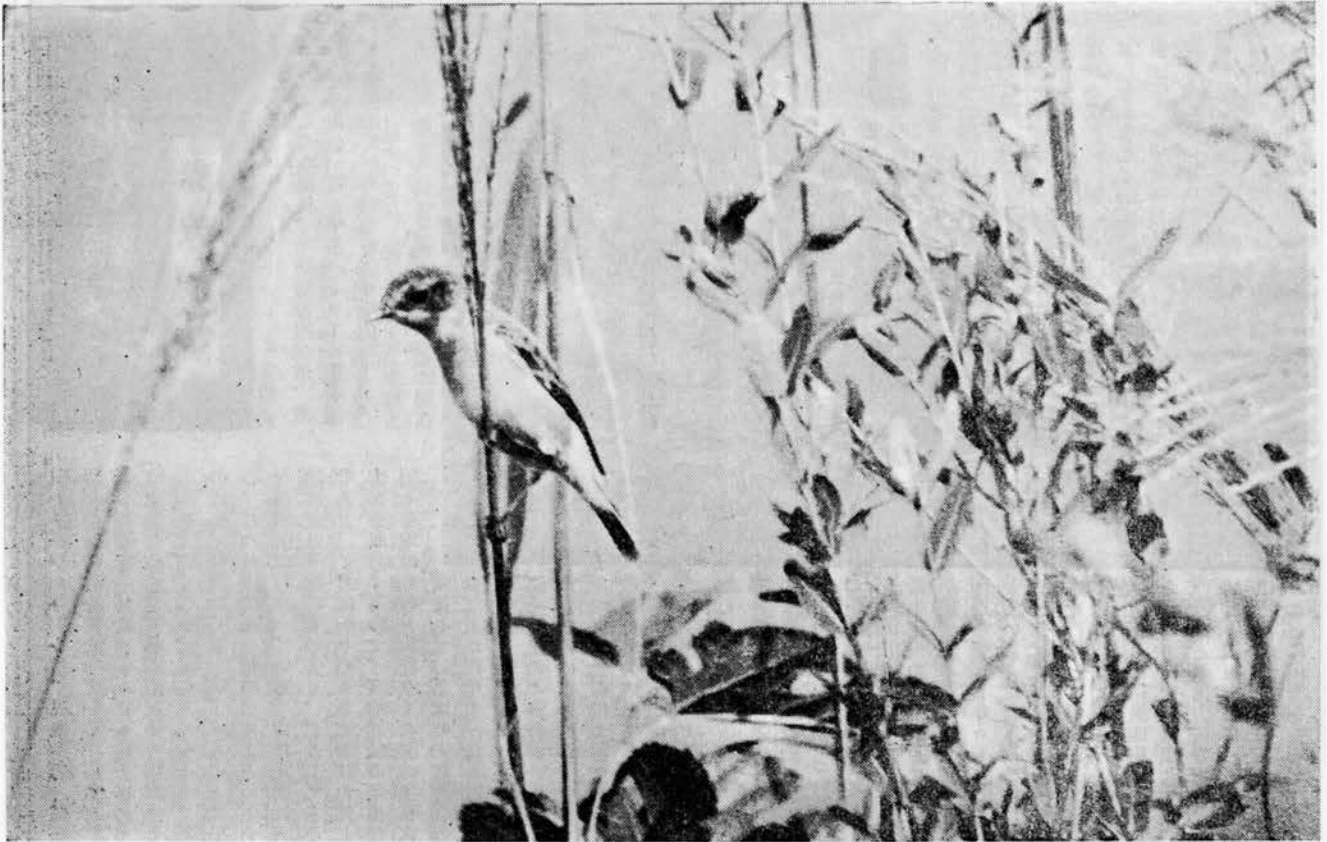


山と博物館

第13巻 第10号 1968年10月25日 大町山岳博物館



冬山を迎えて

十月に入ると北海道をはじめ初雪の便りがとどく。北アルプスは中旬になると中腹まで白くなり、それが根雪となって冬山をむかえる。

谷川岳死者五百人目。毎年のことながら、雪の便りと一緒に聞くのが、山で遭難したニュースである。魔の谷川岳をはじめ、山のこわさをしみじみ感じさせる。

死者に鞭うったり、家族に酷ない方をするつもりはないが、山での遭難それは全く馬鹿馬鹿しい限りである。

最近の交通機関の発達や山の施設の強化はかってベテランだけがいどんだ山を、ネコもシヤクシも簡単な気持ででかけられるようになってしまった。

登山もスポーツの一部門である限り、ある程度の怪我や故障はやむを得ない場合もあるが、高度二千メートルを越える山へ登るにハイキングのような装備で気軽にでかけてはたまったものではない。

山にどんな危険がひそんでいるかを知らない登山者が、あまりにも多過ぎる。山を知らないで山に登るのは、火の熱さを知らないで火にとび込むのにひとしい。激変しやすい気象、けわしい岩場、落石やスリップ。凍死や転・滑落危険はいっぱいある。

危険地区へ入山届もなしに入り込むのは、計画やリーダーなしの未熟者グループとしか者えられない。横のつながりだけで、喫茶店へ誘われてでかけたようなグループでは、登山はやめてもらいたいものだ。

登山には強い縦のつながり、指導者が是非とも必要である。明年四月から博物館の隣りに長野県立山岳総合センターができ、指導者講習を行なうことになったが、今から大いに期待している。

登山は無事に帰ってくるのが、終りであり始めである。人騒がせや親不幸は本当にこめんである。山の遭難ニュースがやってきたが、今年こそ山の遭難のニュースを聞きたくないものである。

【館長 関 益雄】

監視指導票 大町保健所

例年夏山のシーズンに入ると、当所では山岳観光施設の監視指導のため、環境衛生監視員、食品衛生監視員、予防防疫担当者、水質検査担当者を一組とするパトロール班を編成し、関係市町村の協力を得て登山コース、

夏山衛生パトロールを顧みて

赤沢宗平

視員、食品衛生監視員、予防防疫担当者、水質検査担当者を一組とするパトロール班を編成し、関係市町村の協力を得て登山コース、

観光路のゴミの山

| 監視項目 | | 指導事項 | 監視項目 | | 指導事項 |
|------|-------------|------|---------|----|---------|
| 食品衛生 | 換気装置 | 環境衛生 | 客室と管理 | 防疫 | 客室と管理 |
| | 作業衣・帽子・はきもの | | 尿処理施設 | | 尿処理施設 |
| | 食品 | | 器具管理 | | 器具管理 |
| | 天井・側 | | 飲料水 | | 飲料水 |
| | 床 | | 昆虫駆除 | | 昆虫駆除 |
| | 防虫設備 | | 宿泊人名簿 | | 宿泊人名簿 |
| | 消毒 | | 一般清掃 | | 一般清掃 |
| | 消毒設備 | | 監視員健康状態 | | 監視員健康状態 |
| | 器具消毒設備 | | 従業員の衛生 | | 従業員の衛生 |
| | 器具消毒設備 | | 施設の衛生 | | 施設の衛生 |
| 冷蔵庫 | | | | | |
| 給水装置 | | | | | |
| 汚物処理 | | | | | |



山小屋をパトロールし、現地指導と従業員の実地衛生教育を行なっている。広大な北アルプス地域を一つのパトロール班でまわることが無理なので、大体二泊三日を限度としてコースを、いくつか区切り一シーズン延六班の出動で管内の一周を完了することになっている、この外環境衛生補導員によるパトロールを波状的に行なっている。山岳地帯における諸施設は平地のものより、どうしても不十分であり二ヶ月ばかりのうちにお願いしたい登山客を収容するので、宿泊施設の衛生指導事項も平地のものより上の表の項目により実施している本年の監視指導施設数二五か所中食品衛生面についてはは食品庫が狭少又は不備が七か所防虫防菌の不十分が一七か所手指消毒設備のない所が十七か所、その外は比較的良好で年々施設の改善に努力されてきている。

従業員の大部分は最近努力不足の現象によりアルバイトによる従業者が多く、検便等は殆んど全員が実施されていたが、施設の清掃管理、食品の取扱等不十分で環境、食品衛生の向上と伝染病の予防は従業員心が次第で実践できることであり、公衆衛生のポイントであるだけに今後一層衛生教育を徹底して危害の発生防止に努めることが肝要である。登山者は年々増加の一途にある現在、施設外の問題点はいわゆる登山コース周辺及び休憩地点における環境衛生対策である、この登山コース周辺及び休憩地点における紙くず空罐による汚れは目にあまるものがある。幸い関係市町村、関係施設の経営者、関係機関の協力により、大町市、白馬村に夏山の清掃美化に対する協議会が設立されてその成果期待されている。

大町地区夏山観光地清掃美化協議会設置要綱

一、目的 大町市管内夏山観光地の汚損について特に汚物(ゴミ等の散乱)を防止して自然美の保護と環境衛生の向上につとめ観光事業の発展に貢献することを目的とする。

二、運動方針

(1)夏山観光関係事業者による協議会を組織して、清掃美化の実践活動を行なう。

(2)県が設置する環境衛生補導員と協力して清掃事業を行ない観光客ならびに観光事業従事者に対して、清掃美化に必要な指導をすることをともに協力する。

(3)関係機関と必要事項について積極的に協力し、関係方面に連絡陳情等を行なう。

規約

第一条(名称及び事務所)

この会は、大町地区夏山観光地清掃美化協議会とす。

第二条(目的)

この会は、大町管内の夏山観光地の清掃美化につとめ、自然美にふさわしい環境を保持し、安全にして楽しい登山を通じて、観光事業の

発展に貢献することを目的とする。

この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行なう。

- (1) 観光地内関係施設等の清掃美化
 - (2) 観光客ならびに観光事業従事者に対する清掃美化に必要な措置等の推進
 - (3) 清掃美化に関する関係方面への連絡、通報、陳情など。
 - (4) その他目的達成のため必要な事項
- 第四条 (構成)

ゴミ籠の組立をする補導員



この会は山岳宿泊施設経営者および関係機関をもつて組織する。

- 第五条 (役員) 会長 大町市長 外略
 - 第六条 (役員等の選任及び任期) 略
 - 第七条 (役員等の任務) 略
 - 第八条 (会議) 略
 - 第九条 (総会) 略
 - 第十条 (役員会) 略
 - 第十一条 (経費) 昭和四十二年四万三千元
 - 第十二条 (会計年度) 略
- 白馬村夏山観光地清掃美化協議会規約も大町地区美化協のものと同じで異なるところは事務所を白馬村役場内におき、地域を白馬岳、八方尾根地区に限り、経費は大町地区の五倍強の二十三万三千六百円で運営されている。

事業の主なもの、

- 一、くずかごの設置 (金網のもの)
- 主として登山道の休憩地、水場等に設置して、常設作業員、青年団又は山小屋経営者の協力によりごみを処理している。

二、PR活動

登山者に対する衛生教育、清掃美化に協力依頼。組織を通じて環境衛生の向上と自然美の保護に努力しているが、あまり広大な地域と限られた予算、人員で今後さらに推進するには、数多くの問題がある。

特に、ごみ処理について、昭和四十年清掃法が改正され、国の管理する地域は国で、県で管理する地域は県で清掃を実施することになっている。当所管内の山岳施設は大部分が国有地であり、国立公園や自然公園であるので直接所管している厚生省をはじめ林野庁その他

他の関係機関を中心とした、中味ある強力な観光行政が望まれる。

また一方登山客についても公衆衛生道德の高揚を強く叫ばなければならない。

山岳観光地における公衆衛生活動が自然の美化をもたらしのは当然だが、究極の目的は山岳観光地における伝染病や食中毒の予防である。(大町保健所環境衛生課長)

博物館だより

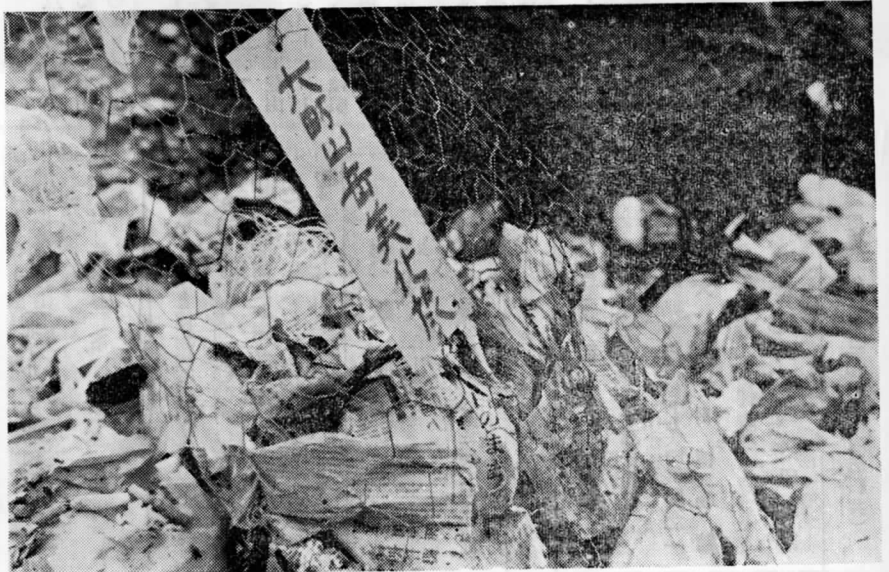
雷鳥の現地飼育

おわる

本年六月以来、北アルプス爺ガ岳の種池小屋付近(標高二四八〇米地点付近)で進められて来た当館のライチョウ現地飼育事業は、このほど、成功裡に終了した。

当館では昭和三十八年以來五か年にわたってライチョウの人工孵化並びに低地育雛を試みてきたが、例年、多くは七・八月の気温の最高時に育雛に失敗し、雛を失っている。この主な原因は、冷房施設が不備であり、ライチョウに適した気候を与えることが不可能であったためとみられる。

本年度は例年の失敗を克服すると共に、人工気候室の設計や人工餌改善の資料を得るため、高山現地に於ける育雛が行なわれた。現地育雛によって育った二つの家族群(十羽のうち、一家族(雌親一、ヒナ二)は九月十八日(日令七十一日)に、他の一家族(雌親一、ヒナ二)は九月二十四日(日令七十二日)にそれぞれ移送が行なわれ、現在、当館裏山において飼育が続けられている。



ゴミ籠も充分利用される

カモシカ順調に育つ

九月六日和歌山新宮市から山岳博物館に移送された、カモシカの幼体は現在順調に生育している。到着時には二・〇五キロであった体重も五・五〇キロにのび元気に放養園の中を走りまわっている。

カモシカのメス受入れ

九月二十八日南安曇郡安曇村で保護され顔面打撲で左目を負傷していたカモシカ推定三才が山岳博物館に移送され、治療がほとんど済んでいたが、この負傷もほぼ治り、現在大助(オス)と一緒にされている。長い間期待されていた増殖によりやく明るい希望がでてきた。これで当館のカモシカは五頭。

夏山常駐隊を終って

蟹 沢 馨

常駐隊とは、県知事を会長とする、山岳遭難防止対策協会の、防止部を担当する、教育委員会の事業の一環として行なわれる、山岳補導の現地補導員と言う事になる。又一たん事故発生の場合は、当然救助活動にあたらねばならない。

現在常駐隊は、北アルプスのみに設置され隊員は、北アルプス、北部、南部合せて、三十三名で結成されており、約五十日間割当られた常駐個所に於て、それ〴〵登山者の事故の防止に万全を期するのである。

私達は今年も七月十三日より入山、登山者の補導にあたった。

入山当初、道路の整備、浮石の除去、又危険個所にはクサリの設置、或は道路標識の点検等冬越しで、荒れはてた登山道を最盛期前に一通り整備するのが、例年繰返されている私達の仕事である。

常駐隊が入山する様になって六年目を迎えた今日、六年間の私達の山の事故資料に基づき新聞、或はラジオを通じて、山の遭難防止を毎日のように呼び掛けているが、今年度を振り返って見ても、決して事故が少なくなつたとは言いきれない。むしろ、史上最高とまで言われている。

土、日曜台風と言われた今年の夏は例年に比べて、約二割の登山人口が減つただけに残念でたまらなかつた。

特に、白馬岳での落石事故についても、今迄にない、大きな記録であつた。

落石事故、或はスリップ事故、転落等毎日の様に続いて発生する事故も、内容を見れば不可抗力とは決して言い切れない。当然、安

全を考えれば、今年のように残雪の多い大雪渓等はアイゼンを使用すべきである。例をあげれば二、三回登つた事のある登山者が、駅前補導員の注意も聞かず、経験者ぶつて、友達を連れて登つたあげくのはて、落石に遭遇し足の滑べるのを恐れて、逃げ切れず事故を起した。このような事故が大雪山では二件もあつたが、いずれもアイゼンを着用していなかった。又、遊びを禁じられている雪渓、(危険と思われる雪渓は、隊員が遊びを禁じている)等で注意標識を無視し事故を起した登山者も数件あつた。

この様に、遭難のすべては、自然に起るものでなく、ほとんどが、自分の不注意によるもので、決して天災とは言ひ切れない。

又、装備の点からいっても、これも数年來は年々と良くなりつゝあるが、これも、自分が必要に迫られて購入したものでなく、運動

常に登山の安全を気をつけろ



具店の勧めるまゝに買求めた傾向もあり入山してから、装具の使用の出来ない人も、大分見られた。

又、毎年の事だが、登山者一般を見て非常に雨具が悪く、半数近くの登山者は、雨具のつもりで、アノラック等を使用しており、これは非常に危険な行為で、数年前これがために、疲労凍死をした登山者さえあつた。

大半の人は、ポンチョウを使用しているがこれも、行動する場所によりけりで、三〇〇〇級の高山の縦走の場合、下から吹き上げて来る風雨には、何等役に立ないのが現状である。

又、最近では登山者のモラルの点について、大分批判の声が高まって来ているが、一夏山に入つて見て、たしかに登山者のモラルが低下している様に思われる。

高山植物の採取、或は踏荒らす者も年々増える一方で、営林署の監視も頭を痛めているようだ。時々私達も、パトロールの都合で各小屋を点々と巡回する事もあり、小屋で登山者と同室で宿をとつた時など或るパーティーは、深夜迄酒を酌み交し、あげくの果ては唄やら、どなるやらの大騒ぎ、折角楽しみに登つて来た、他の登山者に大迷惑をかけている例を見たが、小屋番の話では、此の頃は、時折この様なパーティーが登山をするとの事念のために、今年度の、北部地区でまとめた活動の状況を見ると左の様になっており疲労と病気の多いのに驚く。

| 事故内容 | 件数 | 救された者 | 死亡 |
|-------|----|-------|----|
| 転落 | 8 | 7 | 1 |
| 落石 | 9 | 12 | 3 |
| 疲労と病氣 | 39 | 38 | 1 |
| 其の他 | 7 | 7 | 0 |

原因としては、夜行列車の睡眠不足の影響もある事だろうが、入山前の不摂生が大きな原因となっている。又、先に述べたように、雨具の不備なために、冷えから来る、病氣等が非常に多く見られた。

自然に親しみを感じ、自分の体力に挑戦し或は、涼を求めてと、登山者の気持には、いろ〴〵ある事だろうが、大衆化されたとは言え、まだ〴〵三〇〇〇級の山々には、人間の力のおよばぬ大きな壁のある事を忘れず良きリーダーを求めて、自分の体力に合った計画の上で、楽しい山行にしたいものだ。

(北アルプス北部隊長)

お願い 「山と博物館」の購読者をつつておられます。年間三〇〇円(送料共)大町山岳博物館宛お送り下さい。(切手は不可) (郵便番号三九八)

表紙説明
ノビタキ (冬羽)
撮影 長沢修介

山と博物館 第13巻第10号
一九六八年十月二十五日発行
発行所 長野県大町市T.F.L.大町②〇二一
大町山岳博物館
印刷所 大町市下仲町
大糸タイムス印刷部

定価 年額 三〇〇円 (送料共)